

第7回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 平成29年10月19日(木) 19時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
- ◇参加者 大西・圓山・阿彌・池見(飛鳥小)、松本(佐保川小) 新宮・松浦(平城小)、西村(東登美ヶ丘小)、河野(附属小)、祐岡(阪南大)、三木・山方(都跡小)、池見・姫田・平田(大宮小)、北村(御所市教育委員)、松田・石田・吉田(済美小)、中澤(平群北小)、島(郡山西小)、大西(奈良市教委)、中澤(きんき環境館)、谷垣・口脇・春日・池上・増成・森本・吉川・中澤(奈良教育大学) 計31人

◇内容

1. 日本ユネスコ国内委員会小委員会からのメッセージ

・SDGsを取り入れたESDの推進

SDGsを見据えつつ、学校や地域での足元の課題解決を大事に進めていく。

・SDGsとESD

教育がすべてのSDGsの基礎、全てのSDGsが教育に期待している。これまで取り組んできた、あるいは今後向き合ふべき喫緊の課題やテーマを具体的に揚げ、その解決に向けた方向性を明確に示したのがSDGs。

・SDGsの取り組み方

17の目標すべてを意識して取組を行うことも考えられますし、地域における特定の目標の達成に貢献しようとすることも大変意義のある取組(ユネスコ国内委員会)

・次期学習指導要領とESD

ESDは次期学習指導要領改訂の全体において基盤になる理念

全体の内容に係る前文・総則において「持続可能な社会の創り手」の育成がかかげられている。

ESDが新学習指導要領全体において基盤となる理念として組み込まれた

・ESDの取り組み方

ESDの活動に取り組むことは、地域に根差した身近な活動が世界につながることであり、地球規模の課題解決に貢献することにつながる

ESDの学習内容や方法は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善という改訂の方向性にも資するもの

2. 大西先生の実践事例の紹介

2007年から世界遺産学習、ESDに取り組み始めた。

世界遺産学習、ESDはこれまで社会科教育でやってきたことと同じだと思った。社会科は学習指導要領から逸脱できないところがあるが、社会科をやっている教員は教科書よりもいいネタを見つけようとしがちだ。世界遺産学習なら学習指導要領を超えた面白い取組ができるのじゃないかと感じた。



「未来に残したい奈良の美しい風景を見つけよう」：南都八景を手がかりに（済美小学校 6 年生）

- ・発信することが大切だと感じていた。
- ・他者からの評価が子どもの自信や意欲につながる。自分がやってきた学びの大切さをあらための実感できる
- ・南都八景の概要紹介→ひとつずつの紹介→J R奈良駅を残した事例・御霊神社・率川神社・奈良の伝説・町名の由来・お地蔵さん
- ・全体での学習から個人の学びへと展開→全体での共有→地域を受け継ぐ当事者意識の育成
- ・「奈良の美しい風景」の発信
816 人へのアンケート（奈良の美しい風景を教えてください）→新南都八景の選定
保護者の意見も取り入れて決めていく ← 保護者の巻き込み・学習効果を大人に波及
- ・5 年生：大仏鉄道、J R奈良駅舎、校区のおじぞうさん、春日山原始林
6 年生：称名寺と村田珠光、多聞城と松長久秀（一人で戦国時代の学習が可能な人物）、
広島の世界遺産と比べよう（巖島神社・原爆ドーム）
→世界遺産の意義を子どもの言葉で考えさせる

38 連隊の跡地（奈良教育大学）

3 年生：おん祭、 4 年生：川路聖謨、入江泰吉

- ・大切に思ってきたこと

題材（何を取り上げるか）：子どもが興味を持ちながら、自分の力で追究できるものを取り上げる

キーワード：社会や人の願いが見える

人の営みが見える、感じることを題材とする

- ・題材の見つけ方

教員自身が「へー、そうなんや」と思うことが出発点。教員自身がまず楽しめるもの。

（たまたまそれが奈良のことなら世界遺産学習になる）

- ・発信の意義 地域を知ることによって地域を愛する気持ちが育つ

発信の舞台が大きければ大きいほど、リスクは大きいけど得るものも大きい。

3. 世界遺産学習を極める（担当：中澤静男）

（1）持続可能な開発目標（SDGs）とESD

①教育の役割（デューイ）

- ・個人的側面 . . .

明治以降の立身出世主義、現代の進学塾

- ・社会的側面 . . . 社会の担い手育成

- ・明治以降の近代化路線：

経済成長のための担い手育成（地球上で大きなエコロジカルフットプリントを残して

いるのは、教育が行き届いた国である（メドウズ))。

- ・経済成長は人々に幸福をもたらすか

エスターリンのパラドックス

一人あたり 15,000 米ドルあたりまでは、国民を力強い、安定的な幸福水準に押し上げる。

それ以降はGDPの成長によって多くの物が買えるようになるが、そこには「もっと幸せ



になる」ことは含まれない：(2016年の日本の一人あたりGDPの成長は38,917米ドル。)
⇒経済成長を追求するよりも、一人一人が幸福を感じることができる社会のづくりを追求した方がよいのでは。

・現代社会：持続可能な社会の創り手の育成が教育の社会的側面としてクローズアップされる。

(2) 2015年 持続可能な開発目標：17の目標と169のターゲット

①貧困撲滅、②飢餓の終焉・持続可能な農業、③健康・福祉、④教育、⑤ジェンダー平等、⑥水
⑦エネルギー、⑧持続可能な経済成長・雇用、⑨インフラの構築、⑩不平等の削減、⑪持続可能な都市・居住区、⑫持続可能な生産と消費、⑬気候変動、⑭海洋・海洋資源、⑮生物多様性、⑯平和、
⑰グローバルパートナーシップ

(3) 世界遺産学習とESD：世界遺産学習のESD的意義

①世代間の公正に関して

- ・将来世代のニーズを満たす能力を損なわない開発 それだけでいいのか？
- ・先人の苦勞と努力を知ることが、次の世代の担い手としての当事者意識を養う：過去への視線

②地域を知る

- ・持続可能な開発に関する行動化は、地域で始める必要がある。そのためには地域を知ることから始めなければならない。地域を知る手掛かりが世界遺産・地域遺産・伝統行事・生活習慣等（それらは、地域の気候や地形、歴史などとの関連がある。人々の連携も見出しやすい）
- ・お国自慢にならない配慮が必要。他地域の学校との交流が望ましい。

③世界遺産や地域遺産を突き抜ける学習

- ・世界遺産や地域遺産、伝統行事などは、たまたま残った、伝えられたものではない。時代時代の人たちが、「伝えたい」「伝えなければならない」という意味があって伝えられているものである。特に世界遺産は、その普遍的価値が世界的に認められているもの。
- ・世界遺産・地域遺産、伝統行事が内包する価値をとことん探究する学習の展開
- ・価値を探究したとき、SDGsにつながる。

④世界遺産・地域遺産を追究しSDGsへ（例）

- ・唐招提寺の釈迦如来立像の胎内物（環境）
- ・唐招提寺のうちわまきが始められた理由（環境）
- ・法隆寺の西円堂（平和）
- ・紀伊山地の霊場と参詣道 一遍上人とハンセン氏病（異文化交流・平等）

連絡：実践発表者の募集

①1月27日（土）

近畿ESDコンソーシアム実践交流会

②2月12日（月・祝）

日本ESD学会近畿地方研究大会

いずれも早いうちに、中澤までご連絡下さい。

両方ともESDマスターの要件である「発信」

にカウントできます。両方とも発表時間は質疑込みで30分以内です。

